

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	1493800104
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	春風の丘
訪問調査日	平成21年2月21日
評価確定日	平成21年3月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1493800104
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	春風の丘
所在地	224-0014 横浜市都筑区牛久保東3-23-35 (電話) 045-350-5691

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成21年2月21日	評価確定日	平成21年3月28日

## 【情報提供票より】(平成21年2月14日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平 20年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤 6人, 非常勤 18人, 常勤換算 3.5人	

### (2) 建物概要

建物構造	平屋造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	72,000 円	その他の経費(月額)	45,000 円	
敷金	有( ) 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 350,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1100 円	

### (4) 利用者の概要(2月14日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	9名	要介護4	3名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82.8歳	最低	72歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	港北ニュータウン診療所
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体は名を地域に定着させている秀峰会、テーマは「天に星、地に花、人に愛」でこれに沿った確固たる理念があり、これを勿論、事務所の目立つ所に掲示するとともに、パンフレット、名刺においても記載、一貫した介護ポリシーで関係事業所全体に展開している。秀峰会は事業部制を敷き、グループホームを1つの事業部として情報の流れをスムーズにしている。事業部本部を横浜に終結し、横の連携を強化するとともに人材の活用面にも力を入れている。このホームは横浜市営地下鉄センター北駅から徒歩15分の新興住宅地の中にある。まだ畑が残り、果実の木も有り、都市計画に沿って公園などもあって閑静で住みやすいところである。平屋で庭の広い、ゆったりとした2ユニットホームである。グループホーム事業部では考え方の中心を「利用者として良いサービス」に置いて方針展開活動を推進している。この方針展開も「従業員満足度を満たして利用者満足度の向上を図る」ものとなっている。秀峰会基本方針の1番に地域社会の福祉向上を掲げ地域密着を推進している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p><b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>開所1年目の今年度はホーム内の体制固めと地域への密着に取り組んだ。ホーム内の体制については、秀峰会で一番新しいホームであるので、他ホームからの要員の移籍、新規採用を併せた要員の整備と他ホーム管理資料の活用を含めた内部管理体制に尽力した。地域への密着については地元の大家さんのご協力により、近隣町内会長等をお招きした開所内覧会の開催、運営推進会議による町内会との連携(回覧板の回付、行事への参加等)などにより順調に地域に溶け込んでいる。</p>
	<p><b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>今回はホームも職員も新しいことでもあり、業務に関する認識を統一し、日頃の活動を改めて見直すツールとして全職員に自己評価票を記入してもらった。これにより自己評価の周知と内容の理解が深まったと考えている。これら職員の自己評価をもとに今回の自己評価票を作成した。このプロセスの中で要改善点があればミーティング等で報告、指示、改善に心がけている。</p>
重点項目②	<p><b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b></p> <p>開所1年目なので運営推進会議は平成20年11月に第1回目を開催し、既に2回開催し、次回は3月開催を考えている。メンバーについて区に相談したところ民生委員は多忙で参加が難しいので町内会を中心とした運営推進会議で良いとのコメントを頂いたので正式メンバーは町内会長、入居者及びご家族、事務局としオブザーバーとして新栄地域包括支援センター及び民生委員にご案内することになっている。この運営推進会議により地域の町内会との関係が深まり、町内会行事への参加やボランティアの紹介、災害時の備蓄等の協力体制など具体的に話し合える関係が出来た。</p>
	<p><b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b></p> <p>ご家族に関しては少ない方でも月1回は訪問してくれているので、その折に入居者の生活や健康状況を詳しく話し合える体制にある。家族会は特に結成していないが、堅苦しい会は考えておらず、イベントに併設して緩やかな交流を図って行きたいと考えている。近々に東京見学のバスツアーを企画中であり利用者、家族、職員が一緒に楽しむことにしている。今後も利用者と家族と一緒に過ごせる機会作りを進めて行きたい。</p>
重点項目③	<p><b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b></p> <p>町内会とは友好的な関係が出来、イベントには車椅子の方でも良いから参加して下さいと好意的であり、季節毎の催し(盆踊り、秋祭り、敬老会等)に参加し、入居者にも地域の一員としての自覚が持てるように促している。運営推進会議でボランティアの紹介があり、近々墨絵のボランティアが来てくれるようになっていく。暮れに職員の感謝の集いがあり、そこにボランティアの方をお招きしグループホーム関係者が謝意を示したところ、このホームにも来て頂けることになったケースがあり良かったとおもっている。近くの小学校から常時人がいるので「子ども110番」になって欲しいとの要望があって引き受けた。これが縁で小学校との交流が出来ればと期待している。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	秀峰会のテーマは「天に星、地に花、人に愛」でこれに沿った確固たる理念があり、これを勿論、事務所の目立つ所に掲示するとともに、パンフレット、名刺においても記載、一貫した介護ポリシーで関係事業所全体に展開している。地域の行政、近隣ケアプラザへのアプローチを実施し、居心地の良い場所作り、雰囲気作り、笑顔作りを実践している。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内で行なわれる朝礼や会議、又同法人内で行われたTV朝礼のDVDを流し各スタッフに伝達している。法人本部の「水源の森たより」としてグループウェアにて送られてきた物をファイリングし、スタッフが常に確認出来る様にしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会のへの加入により、季節ごとの催し(盆踊り、秋祭り、敬老会等)に積極的に参加し、各入居者に地域の一員としての自覚をそれとなく促す事が出来る様コーディネートしている。以前行っていた習い事などを今後も地域の中で続けて行く事が出来ないを近隣で確認し、可能であれば、月1~2回で通えればと考えたりしている。	○	近隣の方々もお誘いし、ご家族、ご利用者と共にバーキュー等を恒例行事としたいと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日頃の活動を改めて見直すツールとして役立てながら、要改善点があれば、日々の申し送りや会議時に報告、指示出ししたり、懸案に掛け改善している。これからも生じる気付きや課題の共有を各職員と行い、より良いサービスを提供していきたい		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度第2火曜日開催中。日々の活動の伝達だけでなく、頂いたアドバイスや意見は真摯に受け取り日頃の業務に役立てている。この運営推進会議により地域の町内会との関係が深まり、町内会行事への参加やボランティアの紹介、災害時の備蓄等の協力体制など具体的に話し合える関係が出来た。	○	今後は、ホームの抱えている問題点もお伝えし、何かあった場合に協力頂ける関係作りも行って行きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の主催する連絡会にも積極的に参加をしている。グループホーム・イベントの案内を出し地域ケアプラザ・他法人グループホームの参加を呼びかけている。市町村、ケアプラザなど、グループホームを知らない方々に見学会を兼ねて、訪問頂いている。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	絶えず、面会時や電話連絡の際、健康状態含めた入居者の様子を付け加えお伝えしている。金銭管理については毎月、月初に前月の支出明細を作成し郵送するか、面会時に報告しながらお渡ししている。職員の体制に変化がある時には、面会者にその都度お伝えをしている。		これからも左記の点に留意しながら、利用者の生活を守っていききたい
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を契約書に明記してある他、施設内に掲げている。日頃から、どんな事でも話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を必要最小限なものとなる様、事業部責任者(上司)や法人人事部と連携を図っている。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修があり、積極的に参加を促している。研修を受けた職員が他のスタッフに研修内容を伝える機会を作っている。		職員がゆとりを持って研修を受けられる人員体制を整備して行きたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修を他施設と実施している。地域ケアプラザとの関係を密にし、地域連携の中でサービスレベルの向上を図って行きたい。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設がどのような環境でどのような方が入居されているか、実際確認し触れて頂く事で安心感にも繋がる為、サービス利用開始までに家族と共に見学して頂く事をお勧めしている。入居を前提とした、お試しのショートステイを希望ある方であれば提供してみたい。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	これまでの習慣等考慮に入れ、利用者のペースで何か役割に通じる事等、生活の支えとなる事柄が出来る様、徐々に働き掛けを行ない、共に支え合う間柄となる様支援している。自ら体験を話して頂ける様コーディネートしたり、他のご利用者と共に出来る話題へと広げ、スタッフがこしへの事柄等を学べるよき機会が生活のあらゆる場面で見受けられている。		今後も継続して実施して行く。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各々の嗜好等踏まえ、本人の思いや意向が日々の生活の中で最大限取り入れる事が出来る様、配慮しコーディネートしている。個々にお好きな音楽を流したり、意向を踏まえた食事を提供したり、満足度の高い生活に努めている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人始め、家族や関係者から聞き取りを行ない、必要な場合にはアセスメント策定に家族・関係者に関わって頂き、より良い介護計画が出来る様努めている。スタッフ、1人1人が日々の生活の中での小さな変化や気付きなど月に一度の会議での議題提供とし、皆の統一を計っている。又、今後のケアへの介護計画へと常に繋げている		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間ごとの介護計画の更新が原則であるが、期間内であっても利用者に状態の変化等が生じ、それまでの介護計画で対応出来ない事柄が出る場合、迅速に家族、本人等と話し合う機会を持ち、必要とされる援助が可能な様、随時介護計画の見直しを行なっている。又その際には各スタッフの意見も取り入れた物を作成している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ法人の他事業所の主催する行事等に利用者と共に出席するなど、日々の生活に奥行きを齎せる事が出来る様配慮している。法人内グループホーム同士の連帯や馴染みの関係作りを行っている、共にスキルアップを行える様、情報交換も同時に行っている。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を尊重し、納得の得られた主治医と連携が取れる様努めながら、希望がある場合には、主治医となる事の出来る往診医を紹介している。主治医がそれまでの掛かり付けのドクターから施設往診ドクターに代わる場合には、利用者の状態把握の為、双方が連携出来る様、配慮したコーディネートを中心掛けている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人にとって相応しい環境が提供出来る様、主治医や家族と共に予め重度化が進んだ時に備えた対応を協議したり、万一退所に繋がる場合に備えた進路についての話し合いを個々の状態に即した時期に本人・家族・主治医と共に行なっている。	○	ターミナルの方の受け入れが今後の課題と思われる
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議や日々の申し送り時に利用者の対応の中で尊厳を保つ言動・姿勢が出来ているか皆で再確認する機会を持っている。また、記録物の取り扱いについては慎重を期し、職務中でも職員以外が目につかない場所へ保管している。		個人情報保護法の更なる理解を深める。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どんなに忙しい時でも、立ち止り利用者の言葉に耳を傾ける等、余裕ある対応を心掛けつつ、自己実現が図れる様な支援をしている。その為、大まかな日課はあるが、業務優先とした視点は持たず、個々にあった臨機応変な対応を心掛けている。日々の生活のその場、その場の状況、場面で常に自己決定が可能な様に配慮している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特に自分で、若しくはある程度のフォローを行えば出来る事、出来る事を重視したコーディネートを意識し、食事の一連の場面においても個々の潜在能力に応じた働き掛けを心掛けている。馴染みの食器具の活用、時に個々の嗜好をお聞きした献立を作るなど利用者の意向を重視している。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々のタイミングや希望を取り入れて入浴を楽しんで頂いている。希望者には、毎日、その他の場合は、一日おきの入浴の機会を提供している。		今後も継続して実施して行く。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々、個々の利用者の生活歴、潜在能力を鑑みて、場面場面でその方の役割に繋がる事や喜びに繋がる事を演出している。散歩、買い物等の日常的な活動は勿論の事、地域のイベントや施設内の行事のコーディネートしている。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や買い物他、町内の行事、区のイベント、外食等に出掛ける支援を行うなど生活のメリハリが付く様演出している。個々の意向のバランスが取れる様に対応している。		今後も継続して実施して行く。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	無断外出探知の機器を玄関内外に設置し、夜間や緊急時以外、施錠をせず見守り重視の対応を行っている。帰宅願望伴う混乱から強行な外出に繋がり身の安全が確保出来そうもない場合のみ、止むを得ず一時的な施錠を行う事があるが、予め家族や近隣にその了解を頂いている。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署のアドバイスのもと災害時の避難通路を確保している他、近隣のお宅に災害時の協力を頂ける様、日頃から民生委員や自治会長にその旨の依頼を行ったり、地域推進会議等で働き掛けを行い、了解を得ている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮したメニューを取り入れつつ、個々の利用者の状態に合わせた調理を行い、各人の摂取量を毎食ごとに記録を残し、申し送りを行っている。メニュー作成時には、同じ法人のさくら苑(特養)の管理栄養士のアドバイスを取り入れている。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々、共用スペースに季節に応じた花や絵画、装飾物を生活感ある自然な形で飾って居心地良い環境への配慮を行っている。また、不快な音や光については、必要に応じて遮断している。利用者にとって、居心地良い環境が提供出来る様、法人全体で取り組んでいる。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々で馴染みのある家具類を各々持ち込まれているが、本人にとって居心地良く、安心・安全・快適な居室作りのお手伝い、演出を心掛けている。		今後も継続して実施して行く。



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム春風の丘
(ユニット名)	すみれ
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市都筑区牛久保東3-23-35
記入者名 (管理者)	今村 晃三
記入日	平成21年2月14日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↓ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・行政、近隣ケアプラザへのアプローチの実施 (個別のパーフレットなどアプローチの為にツールを作成) ・居心地の良い場所作り、雰囲気作り、笑顔作りの実践		ご利用者の方が、以前行なっていた習い事など、今後も地域の中で続けて行く事が出来ないか？ご家族と相談のうち、近隣にて情報提供を行なっている。(可能であれば、月1~2回で通えればと考慮中。)
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内で行なわれる朝礼や会議、又同法人内で行われたTV朝礼のDVDを流し各スタッフに伝達している。		法人本部より水源の森たよりとしてグループウェアにて送られてきた物をファイリングとし、スタッフが常に確認出来る様になっている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、民生委員の方々にお伝えし、地域の活動へお誘いを頂いている。(敬老の日の祝い・盆踊り・地域清掃への参加など)参加のち、ご家族にも来苑時お伝えしている。		今後も、出来る限り地域との関わりが保てる様、発信して行きたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃の挨拶は勿論、理容室の利用、回覧板のやりとり世間話含めて毎日の様に近隣の方々との交流がある		庭先にて、外気浴をしている時など、通りかかった近隣の方々に挨拶をし、ご利用者の方々と顔見知りの関係作りも行っている。閉鎖的なイメージを作らない様考慮し、気軽に立ち寄って頂ける様努めている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入により、季節ごとの催し(盆踊り、秋祭り、敬老会等)に積極的に参加し、各入居者に地域の一員としての自覚をそれとなく促す事が出来る様コーディネートしている。		近隣の方々もお誘いし、ご家族、ご利用者と共にバーキュー等を恒例行事としたいと思っている。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地元出身の方の交友関係を通じたお付き合い、活動への参加。		区の広報誌などからイベント情報を入手し、ご利用者のどなたかに参加して頂くか等検討、地域清掃活動への参加。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日頃の活動を改めて見直すツールとして役立てながら、要改善点があれば、日々の申し送りや会議時に報告、指示出ししたり、懸案に掛け改善している		これからも生じる気付きや課題の共有を各職員と行き、より良いサービスを提供していきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度第二火曜日開催中。日々の活動の伝達だけでなく、頂いたアドバイスや意見は真摯に受け取り日頃の業務に役立てている。		今後は、ホームの抱えている問題点(ご利用者の日中の様子など..)もお伝えし、何かあった場合に協力頂ける関係作りも行っていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の主催する連絡会にも積極的に参加をしている。GHイベントの案内を出し地域ケアプラザ・他法人GHの参加を呼びかけている。		市町村、ケアプラザなど、グループホームを知らない方々に見学会を兼ねて、訪問頂いている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人として管理者クラスを対象とした、体験的な研修を実施し地域包括センターと連携を取り、各種研修等に積極的に参加する		ゆとりを持って参加できる要員体制を作る。職員の研修に対する要望を吸い上げ、法人や事業部として対応する。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として管理者クラスを対象とした、体験的な研修を実施し虐待とは何かをスタッフミーティング等で話し合い、防止への認識を深める。		管理者以外の職員にも順次、高齢者虐待防止法についての研修や勉強会に出てもらう
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な時間をとり重要事項説明書の説明を行っている、特に料金に関する部分と解約に関しては細かく説明している また、説明の途中でも質問を受けるようにしている。		入居時の契約や退所の際の解約時の説明に充分注意し、説明が足りない事が起因したクレームやトラブルはこれからも未然に防ぐ。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会メンバーとして、ご利用者本人及び御家族の参加をお願いし重要事項説明書には内外の苦情相談窓口を明記している。		御家族の意見は、確実に管理者に上げ、スタッフ全員が情報を共有しサービスかきぜんする。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	絶えず、面会時や電話連絡の際、健康状態含めた入居者の様子を付け加えお伝えしている。金銭管理については毎月、月初に前月の支出明細を作成し郵送するか、面会時に報告しながらお渡ししている。職員の体制に変化がある時には、面会者にその都度お伝えをしている。		これからも左記の点に留意しながら、利用者の生活を守っていきたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を契約書に明記してある他、施設内に掲げている。		日頃から、どんな事でも話しやすい雰囲気作りを心掛けている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時他、月1回の定例会議でその機会を設け何かあれば改善に努めている。		秀峰会全体での、改善提案なども利用し、他事業所でも取り入れられる様な仕組みも利用している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	短時間職員の採用を含めご利用者の要望に答えられる体制をとっている。 ご利用者の状況に合わせ臨機応変な対応ができるよう勤務調整している		柔軟に対応出来る様、シフト調整は勿論、勤務時間も職員全体での会議にて決定ののち、変更を行っている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を必要最小限なものとなる様、事業部責任者(上司)や法人人事部と連携を図っている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
○職員を育てる取り組み				

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修があり、積極的に参加を促している研修を受けた職員が他のスタッフに研修内容を伝える機会を作っている。</p>		<p>職員がゆとりを持って研修を受けれる人員体制を整備して行きたい</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>交換研修を他施設と実施。</p>		<p>地域ケアプラザとの関係を密にし、地域連携の中でサービスレベルの向上を図って行きたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人内職員間の親睦会の開催他、内外の研修への参加を働き掛けている。 また仕事のストレスをためない様に何でも話せる雰囲気作りをしている。</p>		<p>年に2度、個別にて話を聞く機会を持っている。又、それ以外でも訴えのあった場合には、その都度対応し、本人の意向に添える様努力している。(本部にて対応が必要な時など、出来る限り考慮行っている。)</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>定期人事考課時の個別面談時には担当職務の評価を行うと共に個々に合わせた目標の設定を行っている。 スタッフの意見が出やすい様配慮し議論をする。</p>		<p>日頃から良い所は伝え感謝し、今後へと繋いで頂ける様伝え、改めるべき所も同時に伝えている。</p>

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人の思い、困り事、ニーズ等、直接聞き取りながら、サービス利用上、不安な事があれば、解消出来る様、受け止め対応している</p>		<p>居室などで、ゆっくりお茶などを楽しんで頂き、個別対応にて話しを聴き不安要素などの軽減を計れる様対応している。同時に何かあっても、この人が居れば安心と思える様な信頼関係へも考慮している</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談初期の段階から利用に至るまでの来所時や電話連絡にあたる際には利用についての不安、ニーズ等見極めた上で具体的なアドバイスをこなっている</p>		<p>対応する各職員のアセスメント能力が均一なレベルとなる様、向上を図って行きたい</p>
<p>項 目</p>		<p>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</p>	<p>(○印)</p>	<p>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</p>
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談初期の段階で対象者や家族のニーズを見極め、たとえ利用に繋がらなくとも、その時必要としたサービスの紹介に努めている</p>		<p>上記に同じ</p>

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設がどのような環境でどのような方が入居されているか、実際確認し触れて頂く事で安心感にも繋がる為、サービス利用開始までに家族と共に見学して頂く事をお勧めしている		入居を前提とした、お試しのショートステイを希望ある方であれば提供してみたい
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	これまでの習慣等考慮に入れ、利用者のペースで何か役割に通じる事等、生活の支えとなる事柄が出来る様、徐々に働き掛けを行ない、共に支え合う間柄となる様援助している		自ら体験を話して頂ける様コーディネートしたり、他のご利用者の方々と共感出来る話題へと広げ、スタッフがいにしえの事柄等を学べるよき機会が生活のあらゆる場面で見受けられている
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	可能な場合には、日々の面会始め、受診の付き添いのお願いや、季節ごとの衣類の入れ替え、施設内の行事への出席等、お願いしている		今後も、今ま同様、身内親戚など、ご本人を取巻くすべての方々へ配慮して行きたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用後も家族間の親交や絆が保てる様、開放された施設である事を本人、家族に常図ねインフォメーションしている		実家に訪問した様な、安堵感を感じて頂ける、居心地の良い寛げる環境の提供を行う。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで培って来た個々の生活習慣を尊重し馴染みの場や家族以外に親交があった方も疎遠にならない様な機会を提供する様努め、働き掛けている		クリスマス会、バーベキューなど、ご家族を通しお誘い頂き交流の機会となっている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格を見極めた上で、日々の生活上、何か協調して行なえる事があればそのコーディネートを行い、一体感や達成感に繋がる様援助している		個々の出来る事出来ない事をしっかりと把握し、無理なく楽しんで参加出来る場共に生活を支えあっていると互いに理解出来る場をの支援をしている。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	季節ごとの催しに招待したり、何か以後の進路で困った事が有る様なら、いつでも相談に乗る事等お伝えしている		可能な場合、家族に無理ない範囲でボランティアとして来所して頂くなど関係を持っていきたい

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各々の嗜好等踏まえ、本人の思いや意向が日々の生活の中で最大限取り入れる事が出来る様、配慮しコーディネートしている		個々にお好きな音楽を流したり、意向を踏まえた食事を提供したり、満足度の高い生活に努めている
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の方のバックグラウンドの把握に努め、利用に至るまでの生活を浮き彫りにしてサービス利用にその情報を役立てている		状況みてご本人との個別対応にて本人のニーズを十分に含んだ生活となる様支援している
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その場、その時の利用者の心身の状態を加味した残存能力への働き掛けを心掛け、無理ないペースで一日過ごせる様、取り計らっている		個別的な視点を統合した総合的な状態把握の判断を行える様になるには、広い視野を持つ事が大切な為、新入職員が入る際にはそれが可能になる様、ゆとりを持った教育を心掛けている

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人始め、家族や関係者から聞き取りを行ない、必要な場合にはアセスメント策定に家族・関係者に関わって頂き、より良い介護計画が出来る様努めている		スタッフ、1人1人が日々の生活の中での小さな変化や気付きなど月に一度の会議での議題提供とし、皆の統一を計っている。又、今後のケアへの介護計画へと常に繋げている
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間ごとの介護計画の更新が原則であるが、期間内であっても利用者に状態の変化等が生じ、それまでの介護計画で対応出来ない事柄が出る場合、迅速に家族、本人等と話し合う機会を持ち、必要とされる援助が可能な様、随時介護計画の見直しを行なっている。又その際には各スタッフの意見も取り入れた物を作成している		左記の継続

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が見ても利用者の変化が明確に分かる様な記述を心掛けながら情報の共有に努め、日々や介護計画作成時に役立てている		特記事項があれば専用のノートを用いて、(大きく変化や問題があった時など)、スタッフ全体で把握出来る様、記載し活用している

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ法人の他事業所の主催する行事等に利用者と共に出席するなど、日々の生活に奥行きを齎せる事が出来る様配慮している		法人内グループホーム同士の連帯や馴染みの関係作りを行っている、共にスキルアップを行える様、情報交換も同時に行っている
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方々の定期的訪問や消防訓練など、年間行事となっている。また、民生委員の方を通じ、地域交流の場への参加も多い。		左記の活動を絶やさない様、継続していきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今の所、他のサービスの利用は無いが、必要に応じて、その利用についての相談や話し合いの場が持てる関係を確保している		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今の所、権利擁護の制度の活用を求められる利用者は居ないが、今後の為にも、包括支援センターとの情報交換を密にしていきたい		運営推進会議通じて近隣の包括担当ケアマネージャーに施設運営上のアドバイスを頂く事もある為、足掛かりとしていきたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を尊重し、納得の得られた主治医と連携が取れる様努めながら、希望がある場合には、主治医となる事の出来る往診医を紹介している		主治医がそれまでの掛かり付けのドクターから施設往診ドクターに代わる場合には、利用者の状態把握の為、双方が連携出来る様、配慮したコーディネートを中心している
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	個々の利用者・家族から希望があれば施設へ訪問診療して貰える神経内科を専門とした主治医を紹介している。認知症の進行具合に応じて必要時にはそのドクターから紹介状を貰い外部の専門医療機関(精神科)での診察が可能な体制となっている。掛かり付けの医者が異なる場合、専門医での検査、診察が望ましいと思われる時には受診が可能な様、家族に病院の紹介含めお勧めする事がある		左記の継続。他、個々の利用者の医療の内容やそれにより起こり得る事柄を把握する為、何か疑問がある時には診察の際や電話連絡等でその都度ドクターや看護師に確認し解消している
	○看護職との協働	馴染みの関係が成立つ様 また 何か変化あった時の為に		



45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	馴染みの関係が成立し、また、何か変化の時に時の為に往診担当看護師に日頃の個々の利用者の様子、状態についての情報交換を行なっている。他、利用者の急な体調変化時には、昼夜問わず診察の依頼を行ったり、指示を仰ぐなど迅速な連携を心掛けている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の経過、状態把握の為、早期退院可能かどうか確認する為、病院を訪問し必要な情報交換を病院関係者(看護師、担当医、ソーシャルワーカー等)と行なっている。他退院時の病院関係者と家族、本人とのムンテラに可能な場合には同席し、退院後の進路を関係者と共に検討している。		定期的な医療機関への訪問を心掛けていきたい
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人にとって相応しい環境が提供出来る様、主治医や家族と共に予め重度化が進んだ時に備えた対応を協議したり、万一退所に繋がる場合に備えた進路についての話し合いを個々の状態に即した時期に本人・家族・主治医と共に進めている	○	ターミナルの方の受け入れが今後の課題と思われる
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の重度化に備えて何処まで対応可能か、対応出来ないことは何か見極めた上で主治医から介護上のアドバイスを貰ったり、どの様に過ごす事が本人にとって最善なのか各職員と共に情報を共有し家族含めて共に模索する姿勢で対応している。他必要時には、家族の理解を貰った上で他の社会資源の照会作業を行なうなど努めている		ご家族や、ドクターとの日々の連帯やコミュニケーションが今後の備えに特に重要と考える
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	最終的に他箇所への住み替えとなる場合、複数の社会資源の情報を法人内外から集めて、より相応しく、本人・家族が納得される環境へ移転可能な様に紹介している		次なる施設への情報提供は勿論、問題があった際、何時でも相談して頂ける様な、環境作りに努めている
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底	会議の目的の中で、話し合いの際に利用者の対応の中で配慮を促		

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議や日々の申し送り時に利用者の対心の中で尊厳を保つ言動・姿勢が出来ているか皆で再確認する機会を持っている。また、記録物の取り扱いについては慎重を期し、職務中でも職員以外が目につかない場所へ保管している		個人情報保護法の更なる理解を深める
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に本人の意思や希望を尊重出来る様支援している、又自己決定の難しい方でも、時間を掛け、選択方式の会話にて、自己決定が可能な様に促している。		ご本人の誕生日には、全てがお好きな料理になる様、あらゆる会話の中で自己決定が行える様配慮している
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どんなに忙しい時でも、立ち止り利用者の言葉に耳を傾ける等、余裕ある対応を心掛けつつ、自己実現が図れる様な支援をしている。その為、大まかな日課はあるが、業務優先とした視点は持たず、個々にあった臨機応変な対応を心掛けている		日々の生活のその場、その場の状況、場面で常に自己決定が可能な様に配慮している
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の意向を尊敬した支援を心掛けている。馴染みの店がある方には、家族に付き添いを依頼するなど対応し、それ以外の方には、施設に有償ボランティアを定期的に招き、散髪(パーマ含む)が出来る機会を設けている		日々の買い物等で希望あれば本人に同行して頂き、美容用品や洋服等購入して頂いている
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	特に自分で、若しくはある程度のフォローを行えば出来る様な事、出来る事を重視したコーディネートを意識し、食事の一連の場面においても個々の潜在能力に応じた働き掛けを心掛けている。		馴染みの食器具の活用、時に個々の嗜好をお聞きした献立を作るなど利用者の意向を重視している
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康上制限がある場合を除いて、個々の方の嗜好物を禁止せずにおやつや食事時などに取り入れて、楽しんで頂いている		日々の買い物に同行して頂き、自己決定し選択する楽しみも味わって頂いている
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ポータブルトイレは使用せず、必要な方には最小限の排泄用品(安心パンツや紙パンツ、尿パット等)を利用しながら個々の排泄のインターバルを見てお声を掛けてトイレに誘導している		主治医と相談しながら、下剤の利用も個々に合わせて、最小限に留めている
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々のタイミングや希望を取り入れて入浴を楽しんで頂いている。希望者には、毎日、その他の場合は、一日おきの入浴の機会を提供している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の習慣や疲労の度合いを考慮して短時間の昼寝やソファ等で寛ぐ時間を日々コーディネートしたり、個々の観察から睡眠パターンを把握し日中の過ごし方に工夫をこらしている		天気の良い日には散歩や庭での外気浴を取り入れている
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々、個々の利用者の生活歴、潜在能力を鑑みて、場面場面でその方の役割に繋がる事や喜びに繋がる事を演出している		散歩、買い物等の日常的な活動は勿論の事、地域のイベントや施設内の行事のコーディネートしている
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力を勘案し、自己保管して貰ったり、買い物や外出時など携えて頂いている		自らがお金を持ったり、使う楽しみを味わえる事の出来る様、配慮している
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や買い物他、町内の行事、区のイベント、外食等に出掛ける支援を行うなど生活のメリハリが付く様演出している		左記に積極的に取り組み、個々の意向のバランスが取れる様に対応している
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者家族の出席する音楽会や季節ごとの催し兼ねた外出に利用者全員で出掛けたり、個別にショッピングに出るなどの援助を行っている		利用者と家族で定期的に温泉に外泊される方もいる
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思を尊重し、極力自らが主体となって連絡が出来る様配慮したり、個々見て、その際のお手伝いを行っている		季節ごとの葉書のやり取り時のコーディネートも適時行い、外部と繋がりを絶やさないう留意している
	○家族や馴染みの人の訪問支援	面会時間の制限は設けていない。来訪者に対しても、絶え		

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ず日頃から心地良い雰囲気作りを心掛けている。時に面会に来た利用者家族が、他の利用者も交えてアクティビティ等利用者が楽しみに出来る事柄を自然にして下さる事がしばしばある。		かつての住まいとまで行かないまでも、自分の家に家族が帰って来たり、来訪者がある様な感覚を覚えて頂ける様、配慮している
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々、見守りや必要に応じての巡回を徹底し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる		左記について、定期的に各種講習会へ出席し、引き続き全職員に周知徹底を図りたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	無断外出探知の機器を玄関内外に設置し、夜間や緊急時以外、施錠をせず見守り重視の対応を行っている		帰宅願望伴う混乱から強行な外出に繋がり身の安全が確保出来そうもない場合のみ、止むを得ず一時的な施錠を行う事があるが、予め家族や近隣にその了解を頂いている
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	絶えず付かず離れずでは無く、状況場面によって心地良い距離感を保つ時があるが、その様な時でも、各職員との声の掛け合いを忘れずに行い事故やトラブルが無い様、目が行き届くよう注意している。(夜間帯は必要時には随時、定時以外の巡回をマメに行い対応している)		見守りを重視したケアを心掛け、本人の意向に沿った対応を心掛けている
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、鋏等使用時は全て職員任せにするのではなく、個々の能力に応じて日常生活の場面、場面で利用者には見守りの上使用して頂き残存能力を生かす対応を心掛けている		基本、危険に繋がる様な物は使用時以外は、目に付かない所で保管している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の生活の中で安全面からも障壁となる様な環境が無いかな？絶えず見直しを図っている。		他、機会見て左記に関する各種研修(法人内外)への参加も積極的に行っている
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	必要時には迅速に状況に照らした救急対応等のマニュアルの改訂を行い、各職員に周知徹底を図りつつ会議時などに定期的にシミュレーションを行っている		上記同様
	○災害対策	消防署のアドバイスのもとに災害時の避難誘導を確保している		

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者のノートノイズのもと災害時の避難通路を確保している 他近隣のお宅に災害時の協力を頂ける様、日頃から民生委員や自治会長にその旨の依頼を行ったり、地域推進会議等で働き掛けを行い、了解を得ている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	危機管理上からも予め起こり得るリスクを事前に家族にお伝えし了解を頂くと共に、よりその人らしい生活が成立出来るよう、問題解決に向けた対応策を共に築き合う努力を行っている		医療的内容が伴う場合には、主治医含めた話し合いを行っている
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	各々の利用者の日常の観察から、少しでも様子が変化した場合の気づきや対応法について、迅速な対応が可能な様、随時スタッフ間で共有している		他、訪問医の診察時に備えて、個々の利用者の健康状態の変化がある時には、個人記録以外にも個別にまとめて、その変化が誰が見ても、手を取る様に分かる様、記録している
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診察時の主治医からの話や個々の処方箋の内容を誰が見ても分かる様な形でファイリング、整備しその内容について全員で共有している		左記の他、投薬の変更がある場合は、日々利用している申し送りノートにも記載行い、漏れが無い様、心掛けている
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	植物繊維を取り入れたメニューを心がけたり、日々のアクティビティーに体操を取り入れたりしている		主治医の指示仰ぎながら、下剤の利用は必要最低限に留めている
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	主治医(歯科)に相談の上、個々の状態に合った対応が可能な様、個々の状態見ての声掛け、見守りを毎食後に行っている		定期的な口腔内チェック、必要に応じた治療、入れ歯の作成等のコーディネートを行っている
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮したメニューを取り入れつつ、個々の利用者の状態に合わせた調理を行い、各人の摂取量を毎食ごとに記録を残し、申し送りを行っている		メニュー作成時には、同じ法人のさくら苑(特養)の管理栄養士のアドバイスを取り入れている
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各種感染症に関してのマニュアルがあり、日頃から予防含めた対策を行っている。(日々、手洗いや嗽等含め励行している)		入居の契約時に感染症の項目が入った健康診断書を提出してもらっている
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、包丁等の各種調理用具の消毒を確実にしないつつ、生ものの扱いには十分注意するなど対応している		極力、延食となるような場合、食事の置き置きはしないが、止むを得ない場合には、調理後30～長くても1時間で破棄し、代替材料で新たな食事を提供する様心掛けている
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門や玄関の内外からも庭の草花に満ちた景観が広がり、近隣や訪れる方にあたかも一戸建ての建物であるかの様な佇まいとなっている		季節に応じて庭の植物の植え替えや手入れを利用者と共に定期的に行っている
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々、共用スペースに季節に応じた花や絵画、装飾物を生活感ある自然な形で飾って居心地良い環境への配慮を行っている。また、不快な音や光については、必要に応じて遮断している		利用者にとって、居心地良い環境が提供出来る様、法人全体で取り組んでいる
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子、テーブル等の配置に気を付け、皆で語らったり、若しくは心理的なプライバシーが確保出来る様な環境に配慮している		
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々で馴染みのある家具類を各々持ち込まれているが、本人にとって居心地良く、安心・安全・快適な居室作りのお手伝い、演出を心掛けている		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>時間ごとの換気に努め、居室、共同スペースの温度管理を利用者の状態をみながら適時行っている</p>		<p>冬季には湿度管理を確実なものとする様、加湿器を置いて乾燥を防いでいる</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ、風呂場は勿論、共同スペースに手摺を設置するなど安全の確保に努め、個々の自立に繋がる様、活用している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>利用者個々の能力をみて、必要な居室には利用者了解のもと、ネームプレートを掛け、居室迷いが無いようコーディネートしている</p>		<p>洗面所やトイレなどの共同スペースで使うペーパー類等、絶えず切らさない様にするなど他の環境にも配慮している</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>建物の外回りに草花を植え込んでいて、各自の居室からそれを眺める事が出来たり、外周を周る事が出来る為、散歩がてら観賞する方もいる。</p>		<p>天候良い日には、各々、庭に出て草花を観賞したり、10時、15時のお茶を兼ねた外気浴を庭で行うなど日々活用している</p>

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム春風の丘
(ユニット名)	たんぼぼ
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市都筑区牛久保東3-23-35
記入者名 (管理者)	今村 晃三
記入日	平成21年2月14日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↓ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・行政、近隣ケアプラザへのアプローチの実施 (個別のパーフレットなどアプローチの為にツールを作成) ・居心地の良い場所作り、雰囲気作り、笑顔作りの実践		ご利用者の方が、以前行なっていた習い事など、今後も地域の中で続けて行く事が出来ないか？ご家族と相談のうち、近隣にて情報提供を行なっている。(可能であれば、月1~2回で通えればと考慮中。)
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内で行なわれる朝礼や会議、又同法人内で行われたTV朝礼のDVDを流し各スタッフに伝達している。		法人本部より水源の森たよりとしてグループウェアにて送られてきた物をファイリングとし、スタッフが常に確認出来る様になっている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、民生委員の方々にお伝えし、地域の活動へお誘いを頂いている。(敬老の日の祝い・盆踊り・地域清掃への参加など)参加のち、ご家族にも来苑時お伝えしている。		今後も、出来る限り地域との関わりが保てる様、発信して行きたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃の挨拶は勿論、理容室の利用、回覧板のやりとり世間話含めて毎日の様に近隣の方々との交流がある		庭先にて、外気浴をしている時など、通りかかった近隣の方々に挨拶をし、ご利用者の方々と顔見知りの関係作りも行っている。閉鎖的なイメージを作らない様考慮し、気軽に立ち寄って頂ける様努めている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入により、季節ごとの催し(盆踊り、秋祭り、敬老会等)に積極的に参加し、各入居者に地域の一員としての自覚をそれとなく促す事が出来る様コーディネートしている。		近隣の方々もお誘いし、ご家族、ご利用者と共にバーキュー等を恒例行事としたいと思っている。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地元出身の方の交友関係を通じたお付き合い、活動への参加。		区の広報誌などからイベント情報を入手し、ご利用者のどなたかに参加して頂くか等検討、地域清掃活動への参加。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日頃の活動を改めて見直すツールとして役立てながら、要改善点があれば、日々の申し送りや会議時に報告、指示出ししたり、懸案に掛け改善している		これからも生じる気付きや課題の共有を各職員と行き、より良いサービスを提供していきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度第二火曜日開催中。日々の活動の伝達だけでなく、頂いたアドバイスや意見は真摯に受け取り日頃の業務に役立てている。		今後は、ホームの抱えている問題点(ご利用者の日中の様子など..)もお伝えし、何かあった場合に協力頂ける関係作りも行っていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の主催する連絡会にも積極的に参加をしている。GHイベントの案内を出し地域ケアプラザ・他法人GHの参加を呼びかけている。		市町村、ケアプラザなど、グループホームを知らない方々に見学会を兼ねて、訪問頂いている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人として管理者クラスを対象とした、体験的な研修を実施し地域包括センターと連携を取り、各種研修等に積極的に参加する		ゆとりを持って参加できる要員体制を作る。職員の研修に対する要望を吸い上げ、法人や事業部として対応する。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として管理者クラスを対象とした、体験的な研修を実施し虐待とは何かをスタッフミーティング等で話し合い、防止への認識を深める。		管理者以外の職員にも順次、高齢者虐待防止法についての研修や勉強会に出てもらう
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な時間をとり重要事項説明書の説明を行っている、特に料金に関する部分と解約に関しては細かく説明している また、説明の途中でも質問を受けるようにしている。		入居時の契約や退所の際の解約時の説明に充分注意し、説明が足りない事が起因したクレームやトラブルはこれからも未然に防ぐ。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会メンバーとして、ご利用者本人及び御家族の参加をお願いし重要事項説明書には内外の苦情相談窓口を明記している。		御家族の意見は、確実に管理者に上げ、スタッフ全員が情報を共有しサービスかきぜんする。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	絶えず、面会時や電話連絡の際、健康状態含めた入居者の様子を付け加えお伝えしている。金銭管理については毎月、月初に前月の支出明細を作成し郵送するか、面会時に報告しながらお渡ししている。職員の体制に変化がある時には、面会者にその都度お伝えをしている。		これからも左記の点に留意しながら、利用者の生活を守っていきたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を契約書に明記してある他、施設内に掲げている。		日頃から、どんな事でも話しやすい雰囲気作りを心掛けている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時他、月1回の定例会議でその機会を設け何かあれば改善に努めている。		秀峰会全体での、改善提案なども利用し、他事業所でも取り入れられる様な仕組みも利用している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	短時間職員の採用を含めご利用者の要望に答えられる体制をとっている。 ご利用者の状況に合わせ臨機応変な対応ができるよう勤務調整している		柔軟に対応出来る様、シフト調整は勿論、勤務時間も職員全体での会議にて決定ののち、変更を行っている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を必要最小限なものとなる様、事業部責任者(上司)や法人人事部と連携を図っている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
○職員を育てる取り組み				

19	<p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修があり、積極的に参加を促している研修を受けた職員が他のスタッフに研修内容を伝える機会を作っている。</p>		<p>職員がゆとりを持って研修を受けれる人員体制を整備して行きたい</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>交換研修を他施設と実施。</p>		<p>地域ケアプラザとの関係を密にし、地域連携の中でサービスレベルの向上を図って行きたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人内職員間の親睦会の開催他、内外の研修への参加を働き掛けている。 また仕事のストレスをためない様に何でも話せる雰囲気作りをしている。</p>		<p>年に2度、個別にて話を聞く機会を持っている。又、それ以外でも訴えのあった場合には、その都度対応し、本人の意向に添える様努力している。(本部にて対応が必要な時など、出来る限り考慮行っている。)</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>定期人事考課時の個別面談時には担当職務の評価を行うと共に個々に合わせた目標の設定を行っている。 スタッフの意見が出やすい様配慮し議論をする。</p>		<p>日頃から良い所は伝え感謝し、今後へと繋いで頂ける様伝え、改めるべき所も同時に伝えている。</p>

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人の思い、困り事、ニーズ等、直接聞き取りながら、サービス利用上、不安な事があれば、解消出来る様、受け止め対応している</p>		<p>居室などで、ゆっくりお茶などを楽しんで頂き、個別対応にて話しを聴き不安要素などの軽減を計れる様対応している。同時に何かあっても、この人が居れば安心と思える様な信頼関係へも考慮している</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談初期の段階から利用に至るまでの来所時や電話連絡にあたる際には利用についての不安、ニーズ等見極めた上で具体的なアドバイスをこなっている</p>		<p>対応する各職員のアセスメント能力が均一なレベルとなる様、向上を図って行きたい</p>
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談初期の段階で対象者や家族のニーズを見極め、たとえ利用に繋がらなくとも、その時必要としたサービスの紹介に努めている</p>		<p>上記に同じ</p>

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設がどのような環境でどのような方が入居されているか、実際確認し触れて頂く事で安心感にも繋がる為、サービス利用開始までに家族と共に見学して頂く事をお勧めしている		入居を前提とした、お試しのショートステイを希望ある方であれば提供してみたい
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	これまでの習慣等考慮に入れ、利用者のペースで何か役割に通じる事等、生活の支えとなる事柄が出来る様、徐々に働き掛けを行ない、共に支え合う間柄となる様援助している		自ら体験を話して頂ける様コーディネートしたり、他のご利用者の方々と共感出来る話題へと広げ、スタッフがいにしえの事柄等を学べるよき機会が生活のあらゆる場面で見受けられている
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	可能な場合には、日々の面会始め、受診の付き添いのお願いや、季節ごとの衣類の入れ替え、施設内の行事への出席等、お願いしている		今後も、今ま同様、身内親戚など、ご本人を取巻くすべての方々へ配慮して行きたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用後も家族間の親交や絆が保てる様、開放された施設である事を本人、家族に常図ねインフォメーションしている		実家に訪問した様な、安堵感を感じて頂ける、居心地の良い寛げる環境の提供を行う。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで培って来た個々の生活習慣を尊重し馴染みの場や家族以外に親交があった方も疎遠にならない様な機会を提供する様努め、働き掛けている		クリスマス会、バーベキューなど、ご家族を通しお誘い頂き交流の機会となっている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格を見極めた上で、日々の生活上、何か協調して行なえる事があればそのコーディネートを行い、一体感や達成感に繋がる様援助している		個々の出来る事出来ない事をしっかりと把握し、無理なく楽しんで参加出来る場共に生活を支えあっていると互いに理解出来る場をの支援をしている。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	季節ごとの催しに招待したり、何か以後の進路で困った事が有る様なら、いつでも相談に乗る事等お伝えしている		可能な場合、家族に無理ない範囲でボランティアとして来所して頂くなど関係を持っていきたい

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各々の嗜好等踏まえ、本人の思いや意向が日々の生活の中で最大限取り入れる事が出来る様、配慮しコーディネートしている		個々にお好きな音楽を流したり、意向を踏まえた食事を提供したり、満足度の高い生活に努めている
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の方のバックグラウンドの把握に努め、利用に至るまでの生活を浮き彫りにしてサービス利用にその情報を役立てている		状況みてご本人との個別対応にて本人のニーズを充分に含んだ生活となる様支援している
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その場、その時の利用者の心身の状態を加味した残存能力への働き掛けを心掛け、無理ないペースで一日過ごせる様、取り計らっている		個別的な視点を統合した総合的な状態把握の判断を行える様になるには、広い視野を持つ事が大切な為、新入職員が入る際にはそれが可能になる様、ゆとりを持った教育を心掛けている

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人始め、家族や関係者から聞き取りを行ない、必要な場合にはアセスメント策定に家族・関係者に関わって頂き、より良い介護計画が出来る様努めている		スタッフ、1人1人が日々の生活の中での小さな変化や気付きなど月に一度の会議での議題提供とし、皆の統一を計っている。又、今後のケアへの介護計画へと常に繋げている
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間ごとの介護計画の更新が原則であるが、期間内であっても利用者に状態の変化等が生じ、それまでの介護計画で対応出来ない事柄が出る場合、迅速に家族、本人等と話し合う機会を持ち、必要とされる援助が可能な様、随時介護計画の見直しを行なっている。又その際には各スタッフの意見も取り入れた物を作成している		左記の継続

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が見ても利用者の変化が明確に分かる様な記述を心掛けながら情報の共有に努め、日々や介護計画作成時に役立てている		特記事項があれば専用のノートを用いて、(大きく変化や問題があった時など)、スタッフ全体で把握出来る様、記載し活用している



3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ法人の他事業所の主催する行事等に利用者と共に出席するなど、日々の生活に奥行きを齎せる事が出来る様配慮している		法人内グループホーム同士の連帯や馴染みの関係作りを行っている、共にスキルアップを行える様、情報交換も同時に行っている
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方々の定期的訪問や消防訓練など、年間行事となっている。また、民生委員の方を通じ、地域交流の場への参加も多い。		左記の活動を絶やさない様、継続していきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今の所、他のサービスの利用は無いが、必要に応じて、その利用についての相談や話し合いの場が持てる関係を確保している		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今の所、権利擁護の制度の活用を求められる利用者は居ないが、今後の為にも、包括支援センターとの情報交換を密にしていきたい		運営推進会議通じて近隣の包括担当ケアマネージャーに施設運営上のアドバイスを頂く事もある為、足掛かりとしていきたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を尊重し、納得の得られた主治医と連携が取れる様努めながら、希望がある場合には、主治医となる事の出来る往診医を紹介している		主治医がそれまでの掛かり付けのドクターから施設往診ドクターに代わる場合には、利用者の状態把握の為、双方が連携出来る様、配慮したコーディネートを中心している
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	個々の利用者・家族から希望があれば施設へ訪問診療して貰える神経内科を専門とした主治医を紹介している。認知症の進行具合に応じて必要時にはそのドクターから紹介状を貰い外部の専門医療機関(精神科)での診察が可能な体制となっている。掛かり付けの医者が異なる場合、専門医での検査、診察が望ましいと思われる時には受診が可能な様、家族に病院の紹介含めお勧めする事がある		左記の継続。他、個々の利用者の医療の内容やそれにより起こり得る事柄を把握する為、何か疑問がある時には診察の際や電話連絡等でその都度ドクターや看護師に確認し解消している
	○看護職との協働	馴染みの関係が成立つ様 また 何か変化あった時の為に		

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	馴染みの関係が成立し、また、何か変化の時に時の為に往診担当看護師に日頃の個々の利用者の様子、状態についての情報交換を行なっている。他、利用者の急な体調変化時には、昼夜問わず診察の依頼を行ったり、指示を仰ぐなど迅速な連携を心掛けている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の経過、状態把握の為、早期退院可能かどうか確認する為、病院を訪問し必要な情報交換を病院関係者(看護師、担当医、ソーシャルワーカー等)と行なっている。他退院時の病院関係者と家族、本人とのムンテラに可能な場合には同席し、退院後の進路を関係者と共に検討している。		定期的な医療機関への訪問を心掛けていきたい
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人にとって相応しい環境が提供出来る様、主治医や家族と共に予め重度化が進んだ時に備えた対応を協議したり、万一退所に繋がる場合に備えた進路についての話し合いを個々の状態に即した時期に本人・家族・主治医と共に進めている	○	ターミナルの方の受け入れが今後の課題と思われる
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の重度化に備えて何処まで対応可能か、対応出来ないことは何か見極めた上で主治医から介護上のアドバイスを貰ったり、どの様に過ごす事が本人にとって最善なのか各職員と共に情報を共有し家族含めて共に模索する姿勢で対応している。他必要時には、家族の理解を貰った上で他の社会資源の照会作業を行なうなど努めている		ご家族や、ドクターとの日々の連帯やコミュニケーションが今後の備えに特に重要と考える
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	最終的に他箇所への住み替えとなる場合、複数の社会資源の情報を法人内外から集めて、より相応しく、本人・家族が納得される環境へ移転可能な様に紹介している		次なる施設への情報提供は勿論、問題があった際、何時でも相談して頂ける様な、環境作りに努めている
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底	会議の目的の中で、話し合いの際に利用者の対応の中で配慮を促		

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議や日々の申し送り時に利用者の対心の中で尊厳を保つ言動・姿勢が出来ているか皆で再確認する機会を持っている。また、記録物の取り扱いについては慎重を期し、職務中でも職員以外が目につかない場所へ保管している		個人情報保護法の更なる理解を深める
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に本人の意思や希望を尊重出来る様支援している、又自己決定の難しい方でも、時間を掛け、選択方式の会話にて、自己決定が可能な様に促している。		ご本人の誕生日には、全てがお好きな料理になる様、あらゆる会話の中で自己決定が行える様配慮している
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どんなに忙しい時でも、立ち止り利用者の言葉に耳を傾ける等、余裕ある対応を心掛けつつ、自己実現が図れる様な支援をしている。その為、大まかな日課はあるが、業務優先とした視点は持たず、個々にあった臨機応変な対応を心掛けている		日々の生活のその場、その場の状況、場面で常に自己決定が可能な様に配慮している
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の意向を尊敬した支援を心掛けている。馴染みの店がある方には、家族に付き添いを依頼するなど対応し、それ以外の方には、施設に有償ボランティアを定期的に招き、散髪(パーマ含む)が出来る機会を設けている		日々の買い物等で希望あれば本人に同行して頂き、美容用品や洋服等購入して頂いている
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	特に自分で、若しくはある程度のフォローを行えば出来る様な事、出来る事を重視したコーディネートを意識し、食事の一連の場面においても個々の潜在能力に応じた働き掛けを心掛けている。		馴染みの食器具の活用、時に個々の嗜好をお聞きした献立を作るなど利用者の意向を重視している
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康上制限がある場合を除いて、個々の方の嗜好物を禁止せずにおやつや食事時などに取り入れて、楽しんで頂いている		日々の買い物に同行して頂き、自己決定し選択する楽しみも味わって頂いている
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	最小限の排泄用品(安心パンツや紙パンツ、尿パット等)を利用しながら個々の排泄のパターンを知りお声を掛けてトイレに誘導している		主治医と相談しながら、下剤の利用も個々に合わせて、最小限に留めている
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々のタイミングや希望を取り入れて入浴を楽しんで頂いている。希望者には、毎日、その他の場合は、一日おきの入浴の機会を提供している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の習慣や疲労の度合いを考慮して短時間の昼寝やソファ等で寛ぐ時間を日々コーディネートしたり、個々の観察から睡眠パターンを把握し日中の過ごし方に工夫をこらしている		天気の良い日には散歩や庭での外気浴を取り入れている
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々、個々の利用者の生活歴、潜在能力を鑑みて、場面場面でその方の役割に繋がる事や喜びに繋がる事を演出している		散歩、買い物等の日常的な活動は勿論の事、地域のイベントや施設内の行事のコーディネートしている
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力を勘案し、自己保管して貰ったり、買い物や外出時など携えて頂いている		自らがお金を持ったり、使う楽しみを味わえる事の出来る様、配慮している
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や買い物他、町内の行事、区のイベント、外食等に出掛ける支援を行うなど生活のメリハリが付く様演出している		左記に積極的に取り組み、個々の意向のバランスが取れる様に対応している
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者家族の出席する音楽会や季節ごとの催し兼ねた外出に利用者全員で出掛けたり、個別にショッピングに出るなどの援助を行っている		利用者と家族で定期的に温泉に外泊される方もいる
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思を尊重し、極力自らが主体となって連絡が出来る様配慮したり、個々見て、その際のお手伝いを行っている		季節ごとの葉書のやり取り時のコーディネートも適時行い、外部と繋がりを絶やさないう留意している
	○家族や馴染みの人の訪問支援	面会時間の制限は設けていない。来訪者に対しても、絶え		

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ず日頃から心地良い雰囲気作りを心掛けている。時に面会に来た利用者家族が、他の利用者も交えてアクティビティ等利用者が楽しみに出来る事柄を自然にして下さる事がしばしばある。		かつての住まいとまで行かないまでも、自分の家に家族が帰って来たり、来訪者がある様な感覚を覚えて頂ける様、配慮している
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々、見守りや必要に応じての巡回を徹底し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる		左記について、定期的に各種講習会へ出席し、引き続き全職員に周知徹底を図りたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	無断外出探知の機器を玄関内外に設置し、夜間や緊急時以外、施錠をせず見守り重視の対応を行っている		帰宅願望伴う混乱から強行な外出に繋がり身の安全が確保出来そうもない場合のみ、止むを得ず一時的な施錠を行う事があるが、予め家族や近隣にその了解を頂いている
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	絶えず付かず離れずでは無く、状況場面によって心地良い距離感を保つ時があるが、その様な時でも、各職員との声の掛け合いを忘れずに行い事故やトラブルが無い様、目が行き届くよう注意している。(夜間帯は必要時には随時、定時以外の巡回をマメに行い対応している)		見守りを重視したケアを心掛け、本人の意向に沿った対応を心掛けている
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、鋏等使用時は全て職員任せにするのではなく、個々の能力に応じて日常生活の場面、場面で利用者には見守りの上使用して頂き残存能力を生かす対応を心掛けている		基本、危険に繋がる様な物は使用時以外は、目に付かない所で保管している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の生活の中で安全面からも障壁となる様な環境が無いかな？絶えず見直しを図っている。転倒注意の方には安全器具(ベッドセンサー)を利用したりしている。		他、機会見て左記に関する各種研修(法人内外)への参加も積極的に行っている
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	必要時には迅速に状況に照らした救急対応等のマニュアルの改訂を行い、各職員に周知徹底を図りつつ会議時などに定期的にシミュレーションを行っている		上記同様
	○災害対策	消防署のアドバイスのもとに災害時の避難誘導を確保している		

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者のノートノイズのもと災害時の避難通路を確保している 他近隣のお宅に災害時の協力を頂ける様、日頃から民生委員や自治会長にその旨の依頼を行ったり、地域推進会議等で働き掛けを行い、了解を得ている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	危機管理上からも予め起こり得るリスクを事前に家族にお伝えし了解を頂くと共に、よりその人らしい生活が成立出来るよう、問題解決に向けた対応策を共に築き合う努力を行っている		医療的内容が伴う場合には、主治医含めた話し合いを行っている
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	各々の利用者の日常の観察から、少しでも様子が変化した場合の気づきや対応法について、迅速な対応が可能な様、随時スタッフ間で共有している		他、訪問医の診察時に備えて、個々の利用者の健康状態の変化がある時には、個人記録以外にも個別にまとめて、その変化が誰が見ても、手を取る様に分かる様、記録している
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診察時の主治医からの話や個々の処方箋の内容を誰が見ても分かる様な形でファイリング、整備しその内容について全員で共有している		左記の他、投薬の変更がある場合は、日々利用している申し送りノートにも記載行い、漏れが無い様、心掛けている
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	植物繊維を取り入れたメニューを心がけたり、日々のアクティビティーに体操を取り入れたりしている		主治医の指示仰ぎながら、下剤の利用は必要最低限に留めている
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	主治医(歯科)に相談の上、個々の状態に合った対応が可能な様、個々の状態見ての声掛け、見守りを毎食後に行っている		定期的な口腔内チェック、必要に応じた治療、入れ歯の作成等のコーディネートを行っている
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮したメニューを取り入れつつ、個々の利用者の状態に合わせた調理を行い、各人の摂取量を毎食ごとに記録を残し、申し送りを行っている		メニュー作成時には、同じ法人のさくら苑(特養)の管理栄養士のアドバイスを取り入れている
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各種感染症に関してのマニュアルがあり、日頃から予防含めた対策を行っている。(日々、手洗いや嗽等含め励行している)		入居の契約時に感染症の項目が入った健康診断書を提出してもらっている
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、包丁等の各種調理用具の消毒を確実にしないつつ、生ものの扱いには十分注意するなど対応している		極力、延食となるような場合、食事の置き置きはしないが、止むを得ない場合には、調理後30～長くても1時間で破棄し、代替材料で新たな食事を提供する様心掛けている
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門や玄関の内外からも庭の草花に満ちた景観が広がり、近隣や訪れる方にあたかも一戸建ての建物であるかの様な佇まいとなっている		季節に応じて庭の植物の植え替えや手入れを利用者と共に定期的に行っている
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々、共用スペースに季節に応じた花や絵画、装飾物を生活感ある自然な形で飾って居心地良い環境への配慮を行っている。また、不快な音や光については、必要に応じて遮断している		利用者にとって、居心地良い環境が提供出来る様、法人全体で取り組んでいる
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子、テーブル等の配置に気を付け、皆で語らったり、若しくは心理的なプライバシーが確保出来る様な環境に配慮している		
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々で馴染みのある家具類を各々持ち込まれているが、本人にとって居心地良く、安心・安全・快適な居室作りのお手伝い、演出を心掛けている		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>時間ごとの換気に努め、居室、共同スペースの温度管理を利用者の状態をみながら適時行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ、風呂場は勿論、共同スペースに手摺を設置するなど安全の確保に努め、個々の自立に繋がる様、活用している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>幸いにも習慣が身につきプレートは下げなくてもご自分の居室へ戻られる。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>建物の外回りに草花を植え込んでいて、各自の居室からそれを眺める事が出来たり、外周を周る事が出来る為、散歩がてら観賞する方もいる。</p>		<p>天候良い日には、各々、庭に出て草花を観賞したり、10時、15時のお茶を兼ねた外気浴を庭で行うなど日々活用している</p>



## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)